



とよしん

海外貿易投資ニュース



第62号
発行日:2016.7.15

アクセスに利点、投資目標額の5割超を達成—大型複合開発区「イスカンダル」の今(1)— (マレーシア)

政府が2006年に開発を始めたジョホール州の大型複合開発区「イスカンダル開発地域(IDR)」は5つの重点開発区に分かれ、教育、金融、ヘルスケアなどサービス産業を中心に重点産業が指定されている。同地域は国際空港・港湾へのアクセスの容易さなどから日本企業の関心も高い。イスカンダル地域開発庁(IRDA)は2025年までの投資目標額を設定しており、現在までにその5割超に達している。

<5つの重点開発区に分けて開発>

イスカンダル開発地域(IDR)はシンガポールと隣接するマレーシア半島最南部のジョホール州を中国の香港と深センに見立て、両地域の補完関係を構築することを目的に開発が進められている。面積はシンガポールの3倍の約2,300平方キロ、人口180万人(2013年)を抱える大型複合開発区だ。なお、ジョホール州に限ると、主要民族別人口分布(同年)はブミプトラ(マレー系と先住民族の総称)が189万人(州人口の54.4%)、中華系107万人(30.7%)、インド系22万人(6.5%)と、中華系人口が全国平均(2割強)より多い。シンガポールに近いことが要因とみられる。政府は教育、金融、ヘルスケアなどサービス産業を中心に重点産業を指定するとともに、IDRを5つの重点開発区(フラッグシップゾーン)に分けて開発を行っている。具体的にはジョホールバル市街地、ヌサジャヤ地区、西部ゲート開発、東部ゲート開発、セナイ・スクダイ開発の5つだ(添付資料参照)。特にヌサジャヤ地区は畑を切り開いて開発された地区で、教育、娯楽、工業・物流団地が集積し、IDRの中心となる予定だ。

<州経済への貢献の80%を担う>

IDRを所轄するイスカンダル地域開発庁(IRDA)は2025年の目標として、人口300万人(2013年:180万人)、名目GDP287億ドル(2012年:157億ドル)、実質GDP成長率7~8%(2012年:6.5%)、134万人の雇用実現(2012年:81万人)を挙げるとともに、ジョホール州経済への貢献の80%をIDRが担うとしている。これら目標実現のために、政府は2006~2015年に累計93億リンギ(約2,418億円、1リンギ=約26円)のインフラ投資、27のバス走行ルートといったソフトインフラ整備、577台の監視カメラの設置などを進めてきた。IDRで企業活動を行う利点として、(1)セナイ国際空港、チャンギ国際空港(シンガポール)、タンジュン・ペレパス港、シンガポール港などへのアクセスが容易、(2)急成長を続けるアジアの各市場から6~8時間の距離、(3)運輸・通信のインフラが完備、(4)十分な教育を受けた多言語を話せる労働力、といった点が挙げられる。加えて、国家プロジェクトの総合石油化学ターミナルが建設される予定のジョホール州東部ペンゲランとも交通アクセスが改善し、ビジネス上の相乗効果が見込まれる。

<外資系企業の投資が4割>

IDRへの投資の具体的なインセンティブとしては、法人税の10年間免税などに加えて、投資規模や業態など各種要素を加味して支援策を変える優遇措置(カスタマイズド・インセンティブ)が用意されている(表参照)。IRDAはIDRの開発企画、誘致活動、政府関連機関との調整機能を担い、電気・電子、石油化学・石油・ガス、食品・農産物加工、ロジスティクス、観光、ヘルスケア、教育、クリエイティブ産業、金融に投資誘致の力点を置く。IRDAは多様な業務を所管するが、首相、ジョホール州首相の直轄に置かれており影響力は大きい。IRDAへの2016年3月までの累計投資額は2,025億リンギに達している。IRDAは2025年までの投資目標額を3,830億リンギとしており、約9年を残して目標の52.9%を達成した格好だ。投資を業種別にみると、製造業が27%、サービス業が9%、不動産関連が53%に及ぶ。外資系企業の投資は全体の4割で、中国(222億リンギ)、シンガポール(191億リンギ)、米国(68億リンギ)、日本(43億リンギ)、スペイン(42億リンギ)の順に多い。中国はカンントリーガーデン、グリーンランドに代表される不動産関連企業の投資が際立つ。対照的にシンガポールからの投資は多業態にわたる。IDRへの日本企業の投資としてはパナソニック、三井物産、大日本印刷、日本通運、イマジカなどのほか、最近では2015年8月にセメント大手の宇部興産がジョホール州東部タンジュンランサット工業団地内で合成ゴム合弁会社の開所式を行った。

イスカンダル開発地域の概要

所轄官庁	イスカンダル地域開発庁(IRDA)
重点産業	電気・電子 石油化学・石油・ガス 食品・農産物加工 ロジスティクス 観光 ヘルスケア 教育 クリエイティブ産業 金融
主な優遇措置	IDRステータス取得会社については、下記インセンティブが考慮される。 1. 認定事業の所得に関して10年間の所得税免除。 2. 非居住者へのロイヤルティや技術料の支払いに対する源泉税を10年間免除。
開発地域	ジョホール州のジョホールバル地域とボンティアンの一部地域

(注) 優遇措置は、重点産業の事業を指定域内で行うことが前提。
(出所) IRDAへのヒアリングなどを基に作成

シンガポールとのウィンウィンの関係も重視—大型複合開発区「イスカンダル」の今(2)— (マレーシア)

イスカンダル開発地域(IDR)では、マレーシアが国策として力を入れるハラール産業の誘致も産業横断的に行われている。同地域には高速鉄道の停車駅が建設される予定もあり、隣国シンガポールとウィンウィンの関係になる事業も展開される。住宅の過剰供給でバブルへの懸念もうかがわれるが、イスカンダル地域開発庁(IRDA)は持続可能な複合開発区に仕上げる意向だ。

＜ハラール産業も誘致しハブに＞

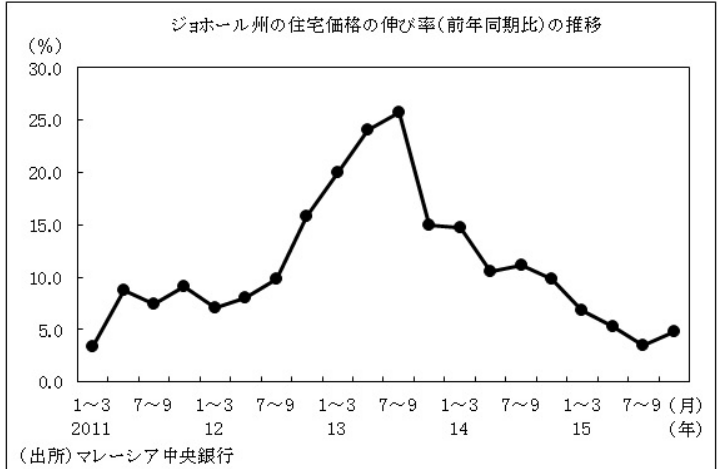
IRDAはハラール産業の投資誘致活動にも力を入れている。食品にとどまらず、化粧品、パーム油、バイオ、物流なども含め、IDRをハラール産業のハブにする意向だ。IRDAは、日本で2020年の東京五輪に向けて訪日ムスリム客の増加が見込まれる中、日系企業がハラール認証を取得した製品をIDRで生産することは意義があるという。日系企業ではポッカサッポロフード&ビバレッジ、化学工業製品・業務用食品事業を手掛けるADEKAが同地域でハラール事業を展開している。マレーシアが国家レベルで育成に力を入れている教育分野では、英国のマルボロカレッジはじめ、「エデュシティー」と呼ばれる学術都市にニューカッスル大学やサウザンプトン大学、シンガポールのラッフルズ大学など、海外の有名大学の集積が目立つ。マルボロカレッジの生徒は80%が駐在員の子息で、その大半がシンガポール国籍を持つ。IRDAは、欧州やシンガポールと比較した投資コスト面での魅力を強調するとともに、教育環境の整備や、ラグビーグラウンドなどのニーズに応えることで、誘致活動を展開してきた。今後は新たな区画「エデュシティー2」を設けて、さらに高等教育機関を誘致する予定だ。

＜観光や交通の要衝にする事業も＞

シンガポールのアセンダスとマレーシアの複合企業UEMサンライズが開発するヌサジャヤ地区内のビジネスパーク「ヌサジャヤ・テックパーク」は、IDRが両国の連携事業であることを象徴する事業の1つになる。シンガポールの企業は土地不足や物価高の面から同パークを活用でき、マレーシアにとっては発展が遅れた地域の開発というメリットがある。IRDAによると、ヌサジャヤ・テックパークは企業誘致にとどまらず、観光や交通の要衝にするなど両国がウィンウィンの関係になる事業を展開していくという。ヌサジャヤ地区には高速鉄道の停車駅が設置される予定で、シンガポール、クアラルンプールからのアクセス面でみても潜在的価値は高いといえそうだ。高速鉄道の開通までの流れとしては、政府は2016年半ばまでにシンガポール政府と覚書を締結する意向で、その後、入札が開始される。現地紙「ニュー・ストレーツ・タイムズ」(4月25日)は開通時期について、当初の2020年から2027年に先延ばしされるとの関係者の見方を報じている。現在、日本のほか中国、韓国、フランスなどがクアラルンプール～シンガポール間の高速鉄道受注に関心を示している。

＜住宅価格の伸びが鈍化傾向に＞

IDRにはマレーシア経済底上げの起爆剤として大きな期待がかかるが、住宅価格の推移からは不安要因もみえる。2013年と2014年はIDRを含むジョホール州の住宅価格は高騰していたが、2015年に入って伸びは鈍化傾向にある(図参照)。住宅が過剰供給にあることを反映しているとみられる。イスカンダル計画がバブル状況にあるのではないかという見方に対して、IRDAは、インフラ整備の進展に伴い投資は順調に拡大しているとし、先行きを強気にみている。IRDAはスマートシティー開発にも力を入れ、IDRの質を高めていくことにしている。環境に優しい街づくりのために、2015年2月には「未来都市」構想で協力する覚書(MOU)を富山市と締結した。水力発電システムや公共交通などのプロジェクトで協力するという。IRDAは単なる経済開発地域にとどまらず、先進国型の街づくり計画も同時に推進し、IDRを「投資」「働く」「遊ぶ」「生活」する上でベストな地域にする青写真を描いている。




(出所:ジェトロ通商弘報2016年6月17日 9903000fb26864ad「シンガポールとのウィンウィンの関係も重視—大型複合開発区「イスカンダル」の今(2)—(マレーシア)」)

！！外貨両替は弊庫へ 米ドルは全店で、17通貨は本店で取扱中！！

次のセミナー等をご案内させていただきました。

セミナー等名称	開催地	主催者
上海・香港・バンコク信金会のご案内	上海・広州・バンコク	信金中央金庫
英国・フランス・ドイツ 食品輸出セミナー・個別相談会	名古屋	ジェトロ
メキシコ市上下水道局職員による現地状況発表会と技術交流会	名古屋	名古屋市上下水道局、他
米国食品安全強化法セミナー	名古屋	ジェトロ
「海外展開における高度外国人材の活用」に向けたワークショップのご案内	名古屋	ジェトロ
中堅・中小企業のためのTPP・ベトナムセミナー	名古屋	㈱国際協力銀行(JBIC)
Manufacturing Indonesia 2016 ジャパン・パビリオン出展のご案内	インドネシア	PT.PAMERINDO INDONESIA

心と心のおつきあい
 **豊田信用金庫**
 国際業務部

〒471-8601
 愛知県豊田市元城町1-48

電話 0565-36-1381

FAX 0565-36-1213

URL <http://www.toyoshin.co.jp>